有朋

「有朋自遠方来」

第３号

「有朋29号」ダイジェスト版

佐大の前身である「佐賀師範学校」の卒業生が「有朋会」を設立したのが明治21年。爾来、佐大教育学部、文化教育学部へと連綿と続く同窓会組織、それが「有朋会」です。

これまで文化教育学部同窓会と二本立てになっていましたが、本年度から一本化され、新しい組織での「有朋会」となりました。本号は、こうした組織改変に伴う役員の交替などに焦点をあてて、お届けしたいと思います。また、本号から新たに、昭和37年石本秀雄先生製作の学章「菱」と、平成16年荒木博申先生製作の学章「カチガラス」も掲載することにしました。

次回発行は、２月の予定です。みなさまからの投稿も楽しみにお待ちしています。

『お世話になりました』

前有朋会会長

古　賀　信　夫

この３月を以って有朋会会長を退任いたしました。12年間の永きにわたり、本部役員をはじめ、支部長や会員の皆様方のご支援ご協力により大過なく終わることができましたことに深謝し、衷心より厚くお礼申し上げます。

ここで有朋会の歩みの一部を振り返れば、明治17年（126年前）に佐賀県師範学校が現在の県立博物館・美術館の場所に創建され、その４年後の明治21年（122年前）12月、冨吉良次郎先生（佐師２回卒）の命日に山門の傍らに「有朋会死者の碑」が建立されて以来、毎年追悼会が開催され、本年も11月21日に117回目の追悼会が予定されております。100年を越す伝統行事であり、永く続けてほしいと思います。

次に有朋会の貴重な財産である六石碑を紹介いたします。①博物館・美術館の北西部に位置している「有朋の碑」（育英の道を志し、青春の夢を抱きし、集い来る朋有り）②「張二男松校長先生の碑」（大正末期～昭和初期の県師範学校長）③「子等よ、高くはばたけ」（有朋会百周年記念事業）④佐大附属中学校正門傍らの「佐賀県女子師範学校・佐賀師範学校女子部の碑」⑤佐大農学部附属資源化学研究所内の「青年教員養成所・佐賀青年師範学校の碑」⑥佐賀市高木町願正寺山門の傍らの「有朋会死者の碑」以上、六石碑の貴重な財産を永く後輩に伝え続けてほしいと願っています。

文教同窓会と一本化へ「有朋会」名を存続!!

これまでの「有朋会」と「佐賀大学文化教育学部同窓会」は、双方の役員が合議を重ねた結果、平成22年度より、組織を一本化して統合することになりました。

一本化の理由は、会員の減少に伴う会費の減収、最近の卒業生のほとんどが教職以外であること、一本化により組織を活性化する必要性があることなどです。また、同窓会の組織上の問題として「有朋会」会員の師範学校卒業生を特別会員に位置づけ、佐賀大学卒業生のみを正会員とすることで、「有朋会」が佐賀大学同窓会の構成員としてみなされるといった経過もありました。

こうした線に沿い会則の改正などが加えられた結果、新しい「有朋会」は問題なく佐賀大学同窓会に組み入れられることになりました。

なお、これまでの行事、会報、名簿、支援事業などの全ての内容は今後もそのまま継承されますし、特別会員は、会費が無料となりました。　（前　村）

新年度より有朋会は、従来の有朋会と文教同窓会の二本立て活動を見直して、会員の現状を踏まえて教員以外の道を選んだ後輩にとっても魅力ある同窓会活動を創造し、充実した運営を図る必要があるということで有朋会の一本化が実現しました。どうか会員の皆様方、よき伝統を後世に継承し、会員の融和と結束によって有朋会の充実発展をされますよう、衷心より祈念いたします。

永い間お世話になり、ありがとうございました。

（S23年師卒　S28年一中卒）

「有朋会」のさらなる発展を願って

新有朋会会長　**宮　尾　正　隆**

明治21年から脈々と引き継がれてきた「有朋会」は、戦前の師範学校、戦後の新制大学教育学部及び現在の文化教育学部卒業生で構成された同窓会です。これまでの組織は師範学校卒業生を核に教育学部卒業生及び文化教育学部卒業生が加わって運営されてきましたが、師範学校卒の先輩方の人数の減少という現状を鑑み、今年から教育学部及び文化教育学部卒業生が会員として先輩のご指導を仰ぎながら、有朋会の運営を行うことになりました。名称は師範学校当時の「有朋会」を生かして、運営を行って参ります。

このような改組により、前会長の古賀信夫先生がご勇退されましたので、その後任として、このたび宮尾正隆「教育学部特別教科（美術・工芸）専攻、昭36年卒」が推薦により会長に就任いたしました。前会長の力量には及びませんが、同窓生の皆様のご協力を得て舵取りをさせていただきますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

これまでの同窓会は主に師範学校及び教育学部卒業生で構成されて運営を行って来ましたので、特に学校現場の先生方には、大変ご苦労をかけて組織をまとめていただいて参りました。しかし、大学の機構改革が実施され、平成元年に教育学部の中に教員免許取得を必要としない新課程として、国際文化や造形文化を学ぶ「総合文化課程」が設置されました。さらに、平成８年には文化教育学部となり、「学校教育課程」、「国際文化課程」、「人間環境課程」、「美術・工芸課程」の四課程が設置され、学校教育課程以外は教員免許を取得しなくて良い課程として内容も充実されました。このため、教職につく学生が極めて少数となり、公務員や企業関係等に就職する学生が多くなって参りました。こうした組織の改革や、社会のニーズの変化に伴い、同窓会のあり方も大きく変わっていくことが要求されてきたわけです。これからは、同窓会の活動の一環として文化教育学部の四課程と結びつきを強めると共に、細やかな対応、就職支援の強化にも努力したいと考えています。

これからの同窓会活動は教職以外の公務員、企業、及び自営業等で活躍されている同窓会の方々にも「有朋会」組織を理解していただき、教職関係に就いた方々と共に活動を行い魅力のある同窓会を皆様と共に発展させていきたいと望んでいます。

― 同窓会・菱の実会館玄関前風景 ―

― 会館玄関に展示されている会長の作品 ―

現場は今！！「学部長懇談会から」

平成22年２月８日、グランデはがくれで開催された学部長懇談会における学部長の話から、最近の現場の活動の情報を抜粋させてもらった。

学部の五年間にわたる取り組みをまとめ、教員養成の発展へとつなげ、また、地域社会に研究・実践の成果を還元できたらと考えて、2009年３月30日「教師をはぐくむ」（文化教育学部研究叢書Ⅳ　昭和堂）を刊行した。また、教育実習を、学部は１年生から４年生、院生は各期に分けて市内の学校10校の協力を得て、試行として実施することでより質の高い実習を目指している。さらに、国の予算措置を得て、医学部と特別支援教育との連携をはかり、臨床教育実習を導入。医学的な根拠を明確にした、発達障がいに強い教師、細やかな対応ができる教師を育てるべく全国的にもさきがけとなる取り組みを進めている。同じような視点で、太良高校での教育実習は、高校生の発達障がいを含めた研修の充実を期している。

国際文化課では、2009年７月、日本国際文化学会第８回全国大会・ダブル公開シンポジュウム『Ａ／Ｂ面の国際文化学――うらがえす知のたくらみ』を開催。新たな学問の構築を目指しているし、シンポをもとに、『周縁学〈九州・ヨーロッパ〉の近代を掘る』を出版した。

また、積極的に留学生の交換も進めているが、2009年度には、ハノイ大学にサテライトを設置した。

佐賀新聞にも大きく紹介されたように、美術・工芸課程の学生の活躍もめざましい。

以下、佐賀大学のおかれている状況について、事務長から説明が加えられた。　（瀬戸口）

豊かな佐賀大学を目指して

佐賀大学同窓会会長
（前文化教育学部同窓会会長）
宮島豊秀

この度、久間前会長の任期満了に伴う役員改選の理事会決定に従い、佐賀大学同窓会会長の大役をお受けいたしました。

浅学非才、とてもその器にあらずと固辞しましたが、再三の申入れと「副会長はじめ理事、事務局員でサポートするから。」とのお約束をいただいて観念いたした次第です。

同窓会の在り方や活性化、課題の対応には様々なご意見があろうかとは思いますが、基本的に大切なことは、問題の先を見通しながら、積極的に自由に意見を出し合い、決定事項の処理には、責任を持ってこれに当たることだと行政の経験上から考えます。

さて、母校佐賀大学は開学以来、地方大学としての数々の苦難を克服し、施設設備も近年着実に充実し、教育内容も時代の流れを先取りして、その重要性を深く認識された諸賢のゆるぎない熱意と努力によって、着々とその地歩を固められ、今やその声価は不動のものとなりつつあります。

開学初期の母校を思い浮かべるとき、正に隔世の感がいたします。歴代の学長様をはじめ、教職員の皆様のご尽力に深い敬意を表したいと存じます。

ところで、キャリア教育の見直しが叫ばれる中、我が同窓会が核となって、平成17年度から「キャリアデザイン（自己発見）講座」を行っています。狙いは、本学出身の若手OB、OGに、自分の就職活動や卒業後の社会人としての体験を披露してもらい、学生諸君に人生のお手本を提供することです。毎講義300名収容の大講義室が満杯になるほどの好評を得ています。

現在の佐賀大学は、教育・経済・医学・理工・農学の五学部で構成され、一学年約1400名の中規模地方総合国立大学で、学生は、近県出身者が多く、女子学生が40%を占めています。就職に際しては、相対的に、近隣の地場企業を希望するものが多いのが特徴的です。このような背景から、キャリアセンターでは、全国規模の企業だけでなく、近県九州一円の求人情報収集、提供もしています。

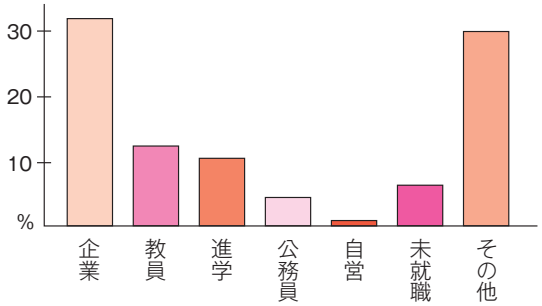
そもそも、「キャリア」の定義が、従来の過去を意味する「学歴、職歴、経歴」から、未来を含めた「人生全体」という意味に変化しているので、キャリア教育とは単に就職先の選び方の教育だけではなく、キャリアデザインつまりは人生設計の仕方であると思います。豊かな時代の若者たちには、健全な勤労観、職業観、人生観を涵養するための教育が必要な時代になったということです。

佐賀大学の佛淵学長が主張される、「学生に選ばれ、卒業生の誇りになり、発展し続ける大学」になるような「出口指導」に、これまで以上に、尽力したいと決意を新たにいたしております。

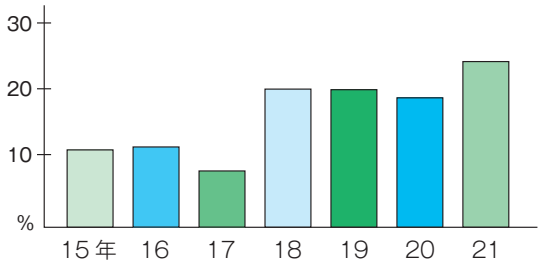
（S35年一小卒）

卒業生の進路状況

A．文化教育学部生の進路（過去６年間）



B．教員の正規採用者の割合



平成22年度「有朋会」役員一覧

No.	役職	氏名	卒業課程	担当部会
	顧問	古賀信夫	S23.師 S28.中	行事顧問
	顧問	宮島豊秀	S35.小	支援顧問
1	会長	宮尾正隆	S36.美	統括
2	副会長	西山武人	S30.中	名簿部会長
3	副会長	吉木靖範	S30.小	行事部会長
4	副会長	井上正一郎	S38.中	支援部会長
5	副会長	鶴良樹	S37.小	行事副部会長
6	副会長	山口久美子	S41.小	会報部会長
7	理事	古賀資之	S34.小	名簿部
8	理事	大島展子	S37.小	行事部
9	理事（大学OB）	成冨宏	S39.美	名簿部
10	理事（大学）	前村晃	S45.美	会報部
11	理事（大学）	田中嘉生	S49.美	支援部
12	理事（大学）	今野厚子	S51.中	会報部
13	理事（大学）	中村隆敏	S61.美	支援部
14	理事（現職）	黒木正孝	S53.小	名簿部
15	理事（現職）	江島きよ子	S52.小	行事部
16	理事（本庄小）	貞包弘章	S50.小	名簿部
17	理事（附属小）	橋本幸雄	S60.小	会報部
18	理事（城西中）	森山千代子	S49.中	支援部
19	理事（附属中）	竹下敬教	S51.中	行事部
20	理事（附属特）	日吉照彦	S52.養	行事部
21	監事	江口信義	S36.中	
22	監事	大庭敏伸	S36.中	
23	理事（事務局長）	瀬戸口悟	S44.小	事務局長

学び舎の窓から

「私は、教師になりたい」

学校教育課程一年　**福　岡　美　沙**

私は、この春、ずっと目標にしてきた佐賀大学に入学しました。文化教育学部学校教育課程教科教育選修で、将来の夢である教師を目指してがんばっています。

私が教師になろう、そう思うようになったのは、これまで多くの先生方との出会いがあったからです。小学校の先生方は、勉強だけではなく、いろいろな遊びや考え方を教えてくださいました。中学校では、高校受験を目指す私たちを常に励まし温かく応援してくださいました。しかし、何と言っても私が一番お世話になり尊敬して目標にするのは、高校の書道の先生方です。

私が教わってきた書道の先生方は、何時も生徒に真剣に向きあってくださいました。夕方遅くまで一緒に残って指導してくださったり、技術面だけでなく、学習面、生活面でも厳しく指導してくださったりしました。また、悩みがあるときは、真剣に話を聞いてもらい、的確なアドバイスなどしてもらい、とても心強い存在でした。私も、この先生方のように、生徒たちと強い信頼関係を築き、大人の意見を押し付けるのではなく、生徒の立場に立ち、同じ目線で、物事を考えられるような教師になれるように、大学でしっかり学び、いろいろなことを体験したいと思います。

私たちは、一年生から教育実習があり、早い段階で教師という職業への準備ができ、意識を高めることができます。このような貴重な体験は、佐賀大学でしかできないと思います。恵まれた環境の中で、しっかり、教師への意識と意欲を高め、私が理想とする教師像を目指しながら、大学生活を有意義なものにしたいと思っています。

私の就職活動

人間環境課程四年　**小宮山　哲　生**

私が佐賀大学に入学したのは、中学・高校の保健体育の免許がとれて、スポーツに関する様々な知識を学ぶことができたからです。しかし、佐賀での寮生生活を送るうちに当然のように多様な価値観に触れて、視野も広がり、当初の教員を目指すという志に多少疑問を抱くようになりました。

二年の春。そんな私の意識の変化を後押ししてくれたのが兄でした。兄は地方の国立大学の教育学部に所属しており、私と同じく入学当初は教員を目指していましたが、一般企業で働くことに決めたそうです。私は心のどこかにあった「教育学部は就活に不利なんじゃないか。」「公務員の方が安定しているのでは。」などのつっかかりがなくなり、これを機に、企業で働いて新しい社会のなかで自分を試そうという気持ちを強く持つようになりました。

とはいえ、就職活動に向けて、特別な準備をしていたのかと問われれば、全くしていませんでした。私はサッカー部で週６日の活動をしており、そこに全エネルギーを注いでいました。また三年の秋には主将となり、来期のチーム作りの先頭に立つ必要がありました。三年次といえば、就職活動で自己を確立し、内定に向けての礎を築く時期です。そこで私は、いかに部活動と就職活動を両立するかというシンプルで最も難しい壁に直面しました。

この問題をどう乗り越えたのか。結論から述べると、私は「自分にあった就職活動のスタイルを確立する」ことが大切だと自分の体験を通して感じました。セミナーに行っても「エントリーシートはこう書け！」「面接で好印象をあたえるには!?」などの講演があったり、本屋に行けば様々な就活本が所せましと並んでいますが、要は、「自分で判断し・選択し、考え、自分でやり方を決める」という当たり前のことです。そしてそれが意外に出来ていない人が多いように感じます。就職活動をしている最中は、誰しもが不安で、精神的に追い込まれたりもします。業者の情報に食いつき、内定をもらおうと必死です。しかし情報というものは、まず疑ってかかるものだと私は思います。自分より知識やノウハウをもっている本や業者を信用しがちですが、それが本当に自分に合っているか、実際のところは自分しか分からないのです。ですから私はエントリー自体は五十社ほどしましたが、実際にエントリーシートや履歴書を提出したのは十社に満たない数です。本当に自分に合って、働きたい企業に集中して就職活動を行いました。部活動も必要最小限しか休まなくてすみましたし、ストレスもたまりにくかったように思います。運よく４月中には内定を二つ頂き、自分としては満足のいく結果を出すことができました。しかし、このやり方が他の人に当てはまるとは限りません。また、午前は部活動の練習、午後は企業セミナー、夜は業界研究や履歴書作成など、両立するための肉体的疲労度は相当なものでしたが、部活動をしていたことで踏ん張ることができました。

私は今回の就職活動を通して、情報をたくさん集め、疑い、その中から自分にマッチするものを選択する力がついたように思います。また、主体的に活動することの重要性に気付きました。そして内定をもらって終わりではなく、新社会人へ向けて、経済新聞を読んだり、業界の動向をチェックしたり、部活動を限界まで行い人間性を磨いたり、あとは少し遊んだり…。学生だから出来ることを精一杯行いたいと思います。

平成22年度 主な本部行事予定

H22.	4.	14 (水)	教員採用試験講座開講
	5.	22 (土)	支部長・代議員・事務担当合同会議
	6.	17 (木)～	教員採用試験支援１次～３次
	8.	21 (土)	第１回　追悼会実行委員会多目的室
	9.	24 (金)	広報紙「有朋29号」発行　配付開始
	11.	21 (日)	総会・追悼会（願正寺・グランデはがくれ）
H23.	2.	初	有朋会と大学の情報交換会
		25 (金)	会費納入締切（年会費1300円）
	3.	初	採用支援事業反省会（学部・キャリア）
		24 (木)	佐賀大学卒業式・祝賀会

－文化教育学部講堂－（美３年 鬼塚美津子）

有朋 29号　ダイジェスト版 第３号

発行日　平成２２年７月１５日

発行者　有朋会会長　宮　尾　正　隆　　編集部長　山　口　久美子

〒840-8502 佐賀市本庄町本庄１　佐賀大学文化教育学部内

ＴＥＬ 0952-23-1253　　ＦＡＸ 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp　ホームページ http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/